

「キャンベラの都市計画を見て熊本市を思う」

長野 敏



キャンベラを一度見たいと思っていた。都市問題に関心をもつほどであれば、誰でもそうだろう。ブラジリアとともに、今世紀都市計画の理想図だからである。

だが、私は行く前に、もう一つ別の意地悪い予見をもっていた。人間の理窟からだけで割り出したマチは、住みにくいだろう。それで、人口は増加しないだろう。都市は理論の関数であるよりも、むしろ感情や情緒、慣習や情勢のような、どちらかというとなら合理的な心情の関数といった方がより正確だろうからである。昼の生活とともに、人間は夜の生活をもっており、頭脳生活

とともに、性や、食や、もつとわけのわからぬ生活をもっているからである。マチはこれらの非合理的な要素を多量にもたなければ発展しないだろう。キャンベラやブラジリアの人口がいまだに十六、七万にとどまっているのは、このためではないだろうか。

TAAのジェット機がシドニー空港を離陸するや、私はつきものにつかれたように、双眼鏡を構えて一物も見逃すまいと、オーストラリアの大地に吸いついていた。樹海があり、それを切り拓いて牧場があり、稀に一点の農家があり、池があり、起伏や形が変わり、その連続した延長が目のとどく限り続いている。機は三十分でキャンベラに着いた。国際線をもたない連邦首都の空港は小さい。

ユーカリの並木の続く街をひと回りし、百二十五万冊の蔵書を誇る国立図書館前の、グリフィン人造湖に面した美しい人気のない公園に坐って、私は考えていた。活字と写真と設計図とからアップロードしたキャンベラの街と皮膚で感じたキャンベラの街とはうまくつながらない。五体で体験したキャンベラの街は、今まで私の頭の中にあつたそれにソッポを向いて、全く別の連想の軌道に私をのせた。

いだろうか。私はアメリカ大陸のあの大きさの思い起こしていた。サンフランシスコからニューヨークへ飛んだ時の印象を反芻していた。この広大な国土で育ったグリーンフィンであればこそ、この計画ができたのであろう。島国の海岸線に沿った狭い平野しか知らない日本人が到底発想することのできないスケールである。

このような連想はまた別の連想をひきおこした。パリで都市計画の話聞いたときのことである。オスマンがナポレオン三世からパリの都市造りを依頼されたから約一世紀、パリの都市計画は今日まで完成していないという。ルーブル宮もまだ未完成なのだという。この話を聞いたとき、私は「大陸」の都市計画の我々の想像を絶したスケールの大きさを思った。日本の都市計画のように、地方自治体というより行政下部機関の首長の任期単位のスケールではない。世紀を単位とした大規模のものである。このような観点から見直したばあい、キャンベラやブラジリアの都市計画は、私の予見したような、現時点にこだわった日本の短期的物尺で見ただけでは、焦点は合わないものである。

ヨーロッパ大陸では数十年毎に戦争があり、その度に国境が変わり、周辺の住民の国籍再編成がおこなわれた。ストラスブルには、第一次大戦にはドイツ兵として出征し、第二次大戦にはフランス兵としてドイツ軍と戦った勇士がいる。このような大陸では、住民の自治体である都市は、国家よりはるかに安定した、恒久性のある確乎とした生活空間である。ヨーロッパの市民意識が国家意識以上に強いのは、このような住民の都市に対する信頼性が国家以上に強いことからきているのではないだろうか。日本の都市のように、国境の相対的に安定した島国のかた、ただ農村より人口が多いということだけが特長の都市ではなく、農村とは全く異質な、かつては城壁に囲まれていた空間、その都市の構成からきているのではないだろうか。そしてこのような市民意識が、また世紀を単位としたあの壮大な都市計画を産み出したのではないだろうか。私はこう思っていて、改めてヨーロッパ都市計画の延長であるキャンベラのそれを見直したのである。

日本ではこのような都市計画は不可能であろう。一つは国土のスケール、とりわけ平地空間のスケールと、二つは、国家と都市との関係である。人口の量的な差だけがその区別である我が国の都市と農村は同質であり、その全体が国家である。このような国では、ヨーロッパ諸国のような国から独立した市民意識による都市計画の百年の大計などは立てられないのである。同質社会では最大の単位の国の計画が優先するからである。

熊本市の都市計画はもっと別個の観点からアプローチしなければならぬ。この問題に関しては、紙幅もつきたので、別の機会にしたい。

(熊商大学長)

有明開発の核

日立造船竣工なる



日立造船有明工場（玉名郡長州町）は、420億の巨費をかけ10月1日完工しました。日本造船界を代表する超大型タンカー工場として47年4月の工場建設から2年5ヵ月、有明臨工の中核となる新鋭工場ができあがりました。

全工場が一貫システムで結ばれるという最新の造船技術と工法が用いられています。今後、地元、ひいては県経済への大きな波及効果が期待されています。